

# NPO 消費者市民ネット21

NEWS LETTER No.10 (2020, 8)

## コロナ禍を過ごしながら

NPO 消費者市民ネット 21 代表理事 酒井はるみ



コロナが初めて水戸市に現れたのは4月初旬であった、8月3日現在県内で327人、水戸市だけで42人を数え、私たち県民・市民もその確実な増加と、もたらす影響の大きさに振り回されながら明日の見えない日々を送っている。

全世界を襲ったコロナウイルスは各国の経済・社会に絶大な被害を与えるばかりか、国際化のなかで他の国々と影響を与えあってもいて、コロナが終息した世界はこれまでの国内の、また国際関係の様相事態を失ってしまっているのではないだろうか。これまでも、現在の利潤追求型の経済はすでに行き詰まっていると指摘する声はあったが、新しい事態を迎え、経済の早急な再検討が求められてきた。

そんなことを考えながら、そういえば各国の事情は伝わってくるのに、国連の声を聞いていないけれど、何か発言しているのではないかと思い、ホームページを開けてみたところ、実は時宜にかなった発言があった。

アントニオ・グテーレス国連事務総長が「都市化する世界と covid19」(2020.7.28) という政策概要を発表していたのである。そこで3つの提言をしていたので、その部分のみ紹介して本稿をとじることとしたい。

提言1 不平等や(スラムや貧困層への)長期的不足に適切に対処すること

提言2 地方自治体の能力を強化することと政府との協力を進めること

提言3 環境に配慮したレジリエンス(しなやかな強さ)と包摂的な経済復興の追及。自転車レーン、都市のモビリティや安全性、大気改善、在宅勤務など新たに登場してきた持続可能な開発(SDGs)の推進。コロナ禍での経験は、より良い復興を成し遂げる機会である。

## NPO 消費者市民ネット21

### 2020 年度総会報告

6月28日(日)、NPO 消費者市民ネット21の2020年度総会が五軒町のみと文化交流プラザで開催

されました。出席者は当日入会の方1名を含め、正会員31名中、出席者16名、委任状10名でした。理事の米川さんを議長に、水戸市消費生活センターを含む2019年度事業報告および決算報告、2020年度事業計画、予算案が滞りなく承認、可決され終了しました。今年度はコロナ禍の中での総会でしたので、記念講話などの開催は見送りました。消費生活センターの運営は4年目に入りました。NPOとしての活動は、センターと協力してエシカル消費や「SDGsの推進」に力を入れることが確認されました。

なお、監事の守田美和子さんが辞任されました。定款では一人でも問題はないのですが、後任の方をお願いすることになると思います。承認には臨時総会での議決が必要なのですが、その場合、書面評決の方法を採用することで検討中です。ご了承ください。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS  
世界を変えるための17の目標



# 水戸市消費生活センターから

本年の消費者月間「市民のつどい」は春からのコロナウィルス感染症の拡大に伴い、恒例の講演会やフォーラムなどの開催が不可能なため、5月25日より5日間市役所1階の多目的ホールで、パネル展示を開催いたしました。令和2年度の消費者庁の全国テーマは、豊かな未来へ「もったいない」から考えようです。チラシも作らず、当日のささやかな案内板と庁内アナウンスだけのお知らせでしたが、約330人の来庁した市民の皆様にご覧いただきました。消費者市民ネット21の皆様にもお越し頂きました。

テーマに基づいて5つのブースに、パネル、関連の品物を展示いたしました。「もったいない」の提唱者は環境分野でノーベル賞を受賞したワンガリ・マータイさんです。マータイさんの紹介パネルからスタート。「MOTTAINAI」はマータイさんが来日して感動したという日本の言葉です。Reduce（ゴミ削減）Reuse（再利用）Recycle（再資源化）の3Rにかけがえのない地球資源に Respect（尊敬する）をあわせて4Rとして国連など環境を守る世界共通語として広めました。まさしく令和2年度のテーマの起源とも思われます。

持続可能な豊かな未来へのアプローチとして次の



「MOTTAINAI」のパネル展示

ブースは「暮らしの中のもったいない」と題し、ごみの削減の食品ロスや省エネに関するパネルと新聞紙やペットボトルを再利用した品々を展示しました。次のブースは正面に飾った大きな農人形と吉原殿中。農人形を作らせお米を作る農民を尊敬し食べ残しのお米を吉原殿中に再生させた水戸藩の「もったいない精神」を展示しました。このブースではコロナに対応するための市民の手作りマスクや着られなくなった洋服や和服を利用してバッグや数々の品物に変身させるなど市民の知恵と工夫に、参加者は興味深く見入っておりました。

最後のブースはテーマの「豊かな未来へ」です。2030年までSDGsで達成しようとする誰一人として取り残さない未来のためにと題したパネルを飾りました。SDGs目標12の「つくる責任 使う責任」の消費者に求められるエシカル、フェアトレード商品や水戸市の伝統工芸品水戸黒や水府提灯など、環境・人や社会・地域に配慮した品を集め展示しました。参加者から「コロナ禍の中でもったいないの意味を新しい価値観として感じた」「水戸の農人形を久しぶりに見た」。また消費者庁の担当職員に報告をしたところ、「水戸市民のもったいない活動が興味深い」との声が寄せられました。大変な状況の中、皆様の協力で大成功に終了できたことを感謝いたします。（水戸市消費生活センター長 田山知賀子）



「豊かな未来へ」のパネル展示

～水戸黒法被や水府提灯

編集後記：コロナ禍で、毎年エントリーしてきた水戸市環境フェアや男女平等参画月間事業が中止となり、今年はいつになったら事業ができるようになるやら不安を抱えてのスタートとなりましたが、目標であるSDGsの推進に向け、密にならない工夫をしながら、事業を実施していく予定です。会員の皆様もSDGsの推進と一緒にかかわって参りましょう。今年度もよろしくお願ひします。  
(事務局長 松本)